



病院等医療機関、
介護老人保健施設および社会福祉施設

OB・OG紹介 — 卒業生の現在 —



長谷川玲子さん

上越市教育委員会 公立中学校栄養職員

新潟県立阿賀黎明高等学校卒業→新潟医療福祉大学健康科学部健康栄養学科卒業→日清医療食品株式会社勤務→独立行政法人国立病院機構新潟病院勤務→上越市教育委員会勤務

現在のお仕事について教えてください

中学校と小学校を兼務し、学校給食における食物アレルギーの対応や衛生管理、食育の授業などを行っています。対象生徒（児童）と保護者との面談により決まった対応法を基に、除去食や代替食の提供を行います。調理員さんと毎日の作業工程や作業同線をチェックし、安心して安全な給食が提供できるように努めています。食育の授業も行います。生徒（児童）の食に関する興味や問題点を洗い出しながら学級担任等と相談し、食育のテーマを決めます。指導媒体なども手作りし、楽しくわかりやすく伝えることを心がけています。

ご自身のお仕事への思いについて教えてください

毎日の給食を楽しみに登校している子どもも少なくなく、給食は食事を摂取するというだけではなく重要な意味があると日々感じます。毎日の楽しみを提供しているという喜びの反面、数百食の給食を管理をしている責任も感じながら働いています。

高校生の頃、どんなことを考えて過ごしていましたか？

大好きなサッカーのことばかり考えていました。将来なりたい職業も特に決まっておらず、サッカーに関わって生きていけたらそれでいいという考えでした。高校2年時のコース選択では理系は苦手だったので、文系コースを選択しました。

管理栄養士になった理由はなんですか？

母が「こういう職業もあるよ」と教えてくれたのがきっかけです。スポーツ栄養を学べばもしかしたらサッカーに関わって生きていけるかもしれないと思いました。母の勤務先の病院で開催された摂食嚥下の講演会で講演している管理栄養士を見て「かっこいい」と思い、本格的に目指すことにしました。

大学時代にやっていたことはなんですか？

大学時代はダンスサークルに所属し、他学科にもたくさんの仲間ができました。サークル活動を通して他の人の意見を聞く、自分の意見を伝えるというコミュニケーション力が養われたと思っています。また、健康スポーツ学科の仲間とともに、アルビレックスプロジェクトを立ち上げました地域と関わりながら活動していく中で、広く周りを見る力がつき、新しい挑戦をすることの大切さに気付きました。

「新潟医療福祉大学でよかった」と思うことはなんですか？

新潟医療福祉大学は、実際の大量調理施設と同様の施設で実習することができます。衛生管理や作業工程、作業動線など自分たちで考えながら実践したので、かなり身につきました。就職してからも、当時の経験や記憶が調理の現場で役に立つことがあります。また、大学4年間で授業やサークル活動を通して他学科の仲間が増えました。就職してからも、それぞれの職場や業界から意見をし合うことがあります。様々な医療・福祉の専門学科が揃う大学だからこそ、他職種とのつながりができたのだと思い、新潟医療福祉大学で学べてよかったと感じます。

臨地実習ではどこに行きましたか？

臨床栄養学では県立病院へ、公衆栄養学では新潟県内の市役所へ、給食管理論では給食会社へ行きました。

最も印象に残っている臨地実習先はどこでしたか？

公衆栄養学実習で行った市役所です。地域のイベント内で行われた調理実習を手伝いました。管理栄養士は食を通じて人・地域を元気にすることができる実感し、子どもから高齢者まで様々な方の役に立つことができる職業だと気づいた実習でした。

その実習先での活動は現在のお仕事につながっていますか？

市役所での実習は、様々なライフステージの方への政策や支援を学ぶことができました。自分だけの目線でなく、相手の状況や困っていることなどをくみ取る力が必要だとわかりました。今の仕事でも、生徒や先生方、調理員さんの立場になって考えながら仕事をしなければならず、実習で学んだことが生きていると感じています。

